

日本復興: どうすれば科学技術は貢献できるか？

～科学の知見、技術という道具、そしてマネジメントの力～

2011年6月28日



株式会社 経営共創基盤
Industrial Growth Platform, Inc. (IGPI)

代表取締役CEO 富山和彦

日本復興に関わる問題構造

- ◆ 課題先進国として直面している問題は不変
- ◆ 時間軸は縮まった(point of no returnはさらに縮まった)
- ◆ 税と社会保障の問題・・・世代間格差への挑戦
- ◆ 財政の問題・・・給付と負担の両方へのメス
- ◆ 経済活性化の問題(含むTPP)・・・規制と既得権の癒着への挑戦と21世紀型イノベーション立国モデルの再構築
 - 少資源、高齢化、一億人の人口が豊かに暮らしていくことの現実の直視
 - 高付加価値 経済活動を国内に維持できなければ、貧困と飢えが待っている
- ◆ 東北地域は課題先進国のさらにまた課題先進地域・・・課題解決モデル？
- ◆ 被災地域の現実・・・県間格差、市町村間格差の大きさ(これが関東大震災や阪神大震災との根本的な違い)

- ◆ 当事者目線からの課題(1)・・・中央で決めるべきことと、地方(県や市町村)に移譲すべき事の仕分けを急げ
- ◆ 当事者目線からの課題(2)・・・さっさと決めろ(スピードが命)
- ◆ 当事者目線からの課題(3)・・・東北も、日本全体も、産業競争力強化・誘致、雇用創出こそが本当の勝負(これと救済原理でやることを峻別せよ)。その観点から、まずは被災地域での総合経済特区、タックスホリデーの設定を急げ
-静かに加速する空洞化こそ、超長期的な大危機
- ◆ 東北地方を先鋭的な改革モデル地域としつつ、国家レベルでの痛みを伴い改革を急げ
- ◆ 東電問題、原発問題、エネルギー問題
- ◆ 最後に問われるのはやはりリーダーシップとマネジメント力・・・日本復興のカギを握る科学技術についても生かすも殺すも、それを使いこなす人間(組織)次第

科学技術の「復興」に関わる日本の根本課題

◆ 科学技術政策の神学化の危機・・・墮落の誘惑との闘い

- 為政者の墮落
- 国民の墮落
- 科学者、技術者の墮落

◆ 科学技術の空洞化の危機・・・現在(過去)と未来の闘い

- 限られた資源の近い途
- 市場経済の資源配分機能への過度の信頼を見直す時(時間軸の限界とイノベーションの現実)

◆ 危機の加速化の危機・・・時間との闘い

◆ 自然、社会、人文横断的に科学者の力を結集して立ちあがるべき時

- 観念的理想論・規範論への傾斜の匂いとポピュリズムが合体することの危険性(救済の規範が殺戮の規範に転化する人類史の逆説)
- 科学≡事実≡リアリズム≡本来のリベラリズム
- 国家経営の基盤を神学の世界から科学の世界に取り戻す